

各中・高等学校の外国語教育における「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標設定
フローチャート（案）

1 〈目的〉

生徒が身に付けるべき能力を各学校が明確化し、教員が生徒の指導と評価の改善に活用すること。

〈検討体制〉

設定過程に外国語担当教員等全員が参加し、言語を用いて何ができるかという観点から、生徒の実態、育成したい能力や生徒像、学習指導要領に基づいた指導と評価の方法を共有する体制を構築する。

2 〈段階の設定〉

入学時の生徒の実態を把握した上で、卒業時の学習到達目標を設定し、そこに到達するためにどのような段階で学習到達目標を設定することが適切かを検討。

（段階例）・学年ごと ・学期ごと ・単元ごと

3 〈設定方法〉

・各学校で実際に行われている学習活動を、言語を用いて何ができるようになるかといった観点から見直した上で、それを基に、上記段階ごとに目標を設定。

〈能力記述文の作成・既存の取組の参照〉

・言語を用いて4技能別に何ができるようになるかを「～することができる」という具体的な文で表す。その際、必要に応じて既存の「CAN-DO リスト」等を参照することが可能。

4 〈指導と評価の計画等への反映〉

・「CAN-DO リスト」の形で設定した学習到達目標を年間指導計画等に位置づけ。
・設定した目標の達成度をどのような方法で把握し、評価するかを計画（別紙参照）。

5 〈単元計画への反映〉

・「CAN-DO リスト」の形で設定した学習到達目標と連動した年間指導計画に基づいて、各単元における目標に対応した、学習活動、評価方法を計画。
・教科書を中心に、学習到達目標に沿った適切な教材を活用した学習指導を計画。



授業を行う

6 〈授業と評価〉

- ・ 言語を用いて何ができるかという観点から見直した授業を実施。
- ・ 評価計画に従い、学習活動の特質等に応じて、その場面における生徒の学習状況を的確に評価できる方法で実施。

評価方法例：設問に答える形式のテスト、エッセーなどまとまった文章を書くこと、スピーチなどのパフォーマンステスト、面接等。

- ・ 単元等のある程度長い区切りの中で適切に設定した時期において評価。さらに学期や学年といった単位で学習の実現状況をまとめ、観点別学習状況の評価に活かす。



7 〈達成状況の把握，学習到達目標の見直し〉

達成状況を把握し、必要に応じ、指導や評価の方法を見直す。さらに、設定した目標が適切であったかどうかを検討し、必要に応じて見直す。



3 〈能力記述文の作成〉に戻る